

改訂日:2021 年 04 月 06 日

## 安全データシート

### 1.【製品及び会社情報】

カタログ番号 252422  
 製品名 コントラッド 70 溶液  
 会社名 日本ベクトン・ディッキンソン株式会社  
 住所 東京都港区赤坂 4 丁目 15 番 1 号  
 連絡先 0120-8555-90  
 使用上の制限 研究用試薬(洗浄液)

### 2.【危険有害性の要約】

#### GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	可燃性エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高压ガス	区分に該当しない
	引火性液体	分類できない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性物質	分類できない
	鈍性化爆発物	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入:ガス)	分類できない
	急性毒性(吸入・蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	分類できない
	水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない

絵表示



注意喚起語

**警告**

危険有害性情報

強い眼刺激

注意書き  
安全対策

- 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。

応急措置

- 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 眼に入った場合、直ちに医師に連絡すること。

保管

- 換気の良い、冷暗所で保管すること。
- 容器を密閉しておくこと。

廃棄

- 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し適切に廃棄すること。

### 3.【組成及び成分情報】

化学物質・混合物の区別      混合物

化学名または一般名	濃度 (%)	CAS 番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
炭酸ナトリウム	2-5	497-19-8	497-19-8	-
第二級アルコール(C=12~14)エトキシ化物	1-2	84133-50-6	7-97	-

### 4.【応急措置】

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪いときは、医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。  
皮膚を石鹼と流水、シャワーで洗うこと。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。  
気分が悪いときは、医師の診断を受けること。

### 5.【火災時の措置】

消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

棒状放水

### 6.【漏出時の措置】

人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置

適切な保護具を着用すること。  
十分な換気を行う。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法  
及び機材

不活性物質に吸収させて、容器に回収する。

### 7.【取扱い及び保管上の注意】

**取扱い**

技術的対策	『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱注意事項	保護手袋、保護衣又は保護面を着用すること。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避 衛生対策	『10. 安定性及び反応性』を参照。 取扱い後はよく手を洗うこと。

**保管**

技術的対策	消防法の規制に従う。
混触禁止物質	『10. 安定性及び反応性』を参照。
安全な保管条件	容器は密閉して換気の良い冷暗所に保管する。

**8.【ばく露防止及び保護措置】**

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

**保護具**

呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。

**9.【物理的及び化学的性質】**

物理的状态、形状、色など	液体
臭い	無臭
pH	データなし
融点/凝固点	0℃
沸点又は初留点及び沸点範囲	>100℃
引火点	データなし
可燃性	データなし
爆発下限及び爆発上限界/ 可燃限界	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
動粘性率	データなし
溶解度(水)	可溶
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	1.04
相対ガス密度	データなし
粒子特性	該当しない

**10.【安定性及び反応性】**

製品としての情報がないため以下、炭酸ナトリウムの安定性及び反応性情報を記載する。

反応性	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	水溶液は中程度の強さの塩基である。 酸と激しく反応する。 マグネシウム、五酸化リンと反応し、爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件	情報なし
混触危険物質	酸、マグネシウム、五酸化リン
危険有害な分解生成物	情報なし

**11.【有害性情報】**

製品としての情報がないため以下、炭酸ナトリウムの有害性情報を記載する。

**急性毒性**

経口(ラット LD<sub>50</sub>) 2800mg/kg、および 4090mg/kg(SIDS (access on July 2008))はいずれも JIS の分類基準の区分外に該当する(国連 GHS では区分5に該当)。

経皮(ウサギ LD<sub>50</sub>) > 2000mg/kg(SIDS (access on July 2008))により区分外とした。

吸入(ラット LC<sub>50</sub>) 1.2 mg/L(SIDS (access on July 2008))より区分 4 とした。

**皮膚腐食性／刺激性**

ウサギ皮膚に 4 あるいは 24 時間適用した試験で紅斑および浮腫ともスコアは 0、刺激性なし(not irritating)の結果(SIDS (access on July 2008))が得られ、さらにヒトのパッチテストでも 4 時間適用により紅斑および浮腫ともスコアは 0、刺激性なし(not irritating)の結果(SIDS (access on July 2008))が得られていることに基づく。なお、ウサギおよびヒトとも損傷皮膚に適用した場合には一次刺激性指数は 2 以上となり若干の刺激性が報告されている(SIDS (access on July 2008), ECETOC No.66 (1995))。

**眼に対する重篤な損傷性／刺激性**

ウサギを用いた試験において、「刺激性なし(not irritating)」～「強い刺激性(highly irritating)」と相反する結果(SIDS (access on July 2008))が出ている。その中の一つの試験で、非洗浄眼の場合全例に角膜、虹彩、結膜(発赤、浮腫)に症状が発生し、14 日の観察期間終了時も症状が残り、ドレイズの最大スコア平均(MMTS)が 105 と報告されている。また、別の試験の非洗浄眼では、ばく露後 1 時間で角膜混濁を生じ重度の影響が 7 日まで持続し、ドレイズの平均評点が角膜で 3.8、虹彩で 2 であり、一部の動物で角膜パンヌスおよび円錐角膜を起こしていた。以上の結果は重篤で不可逆的眼損傷性を示しており、区分 1 に該当する。なお、pH = 11.58 (5 wt% aqueous sol. at 25°C) (HSDB (2003))である。

**呼吸器感作性**

データ不足のため分類できない。

**皮膚感作性**

データ不足のため分類できない。

**生殖細胞変異原性**

データ不足のため分類できない。

**発がん性**

データ不足のため分類できない。

**生殖毒性**

ラット、マウスおよびウサギのそれぞれ器官形成期に経口投与した試験でいずれも母体への毒性および催奇形性を含め発生毒性は認められていない(SIDS (access on July 2008))が、親動物の性機能、生殖能に対する影響に関してデータはなく分類できない。

**特定標的臓器毒性(単回ばく露)**

ラット、マウスおよびモルモットを用いた試験において、吸入ばく露直後に呼吸障害を起こし、呼吸困難、および喘鳴音が認められ、3-4 時間後に治まった(SIDS (access on July 2008))との記載より区分 3 (気道刺激性)とした。一方、ラットに経口投与後の症状として運動失調、虚脱、し眠が記述され、生存例では 5 日目までに症状が消失している(SIDS (access on July 2008))。また、経皮投与後 24 時間の間にし眠が観察されたが死亡の発生はなかったと記載されている(SIDS (access on July 2008))。したがって症状には回復性があり、区分 3 (麻酔作用)とした。

**特定標的臓器毒性(反復ばく露)**

ラットに 70 mg/m<sup>3</sup>/4h(0.0467 mg/L/6h)を 3.5 ヶ月間吸入ばく露した試験で、局所影響として気管支上皮の肥厚と剥離、脈管周囲の浮腫が観察された(SIDS (access on July 2008))が、この所見のみで重大な毒性影響とは判断できない。さらに、雄のみ、一用量のみの試験であり、ばく露による影響についてその他に記載もなく分類できない。

**誤えん有害性**

データ不足のため分類できない。

## 12.【環境影響情報】

製品としての情報がないため以下、炭酸ナトリウムの環境影響情報を記載する。

### 生態毒性

水生環境有害性(急性) 甲殻類(ミジンコ)での 48h-EC50=250mg/L (SIDS 2002)であることから、区分外とした。  
水生環境有害性(慢性) 難水溶性ではなく(水溶解度=5307mg/L、PHYSPROP Database 2008)、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。

### 残留性・分解性

データなし

### 土壤中の移動性

データなし

### 生態蓄積性

データなし

### オゾン層への有害性

該当しない

## 13.【廃棄上の注意】

### 残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

### 汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。

## 14.【輸送上の注意】

### 国際規制

国連番号 危険物として規制されていない。  
国連品名 該当しない  
国連分類 該当しない  
容器等級 該当しない  
海洋汚染物質 該当しない

### 国内規制

陸上規制情報 消防法の規定に従う。  
海上規制情報 該当しない  
航空規制情報 該当しない

## 15.【適用法令】

労働安全衛生法	該当しない
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	第1種指定化学物質(ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル)
毒物及び劇物取締法	該当しない
大気汚染防止法	該当しない
海洋汚染防止法	該当しない
消防法	危険物非該当
船舶安全法	該当しない
航空法	該当しない

## 16.【その他の情報】

### 参考文献

安全衛生情報センター モデル MSDS 情報データベース

GHS 混合物分類判定システム

NITE 総合検索

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における科学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご

配慮をお願いいたします。

改訂履歴	新規作成	2014年10月31日
	改訂第1版	2016年03月04日
	改訂第2版	2021年04月06日